

総合講演・報告 2

グローバル原子力人材育成ネットワークによる戦略的原子力教育モデル事業

Strategic Nuclear Education Model Program by Global Educational Network for Nuclear Human
Resources Development

(1) 全体概要

(1) Outline of Program

*竹下健二、事業代表者

東工大

1. 本事業の目的 「グローバル原子力人材育成ネットワークによる戦略的原子力教育モデル事業（平成 28 年度～30 年度）」の目的は、平成 22 年度に設立された「国際原子力人材育成大学連合ネット」をさらに発展させ、原子力教育・研究に携わっている有志の 19 大学（茨城大学、大阪大学、岡山大学、金沢大学、近畿大学、九州大学、京都大学、東海大学、東京工業大学、名古屋大学、八戸工業大学、福井大学、北海道大学、山梨大学、湘南工科大学、長岡技術科学大学、大阪産業大学）と国内の産業界（日本原子力研究開発機構、日本原子力産業協会、電気事業連合会など 10 機関）が連携・協力して、国内外の質の高い国際原子力人材を戦略的、かつ効率的に育成することである。文部科学省の機関横断的な人材育成事業の一環として、国内のみならず世界の原子力施設の安全確保や危機管理に貢献できる人材の育成を目指し基盤整備を実施してきた。本稿では、直近の 3 年間（フェーズ 3）の事業の成果を主体に、事業開始以来の 9 年間（フェーズ 1～3）の成果も交えて紹介する。

2. 運営体制 「グローバル原子力人材育成ネットワーク」に係る基本方針策定やモデル事業の企画・調整・運営等を効果的に実施するため、「運営企画会議」「3 分科会」を立上げ以下の活動を行った

第 1 分科会 TV 遠隔システムを活用し、原子力の次世代の人材を広い分野から確保することを目的に、原子力教育を受けたことのない国内外の学生（他専攻、他学科、高専等）も対象とした原子力及び放射線に関する基礎教育「国際原子力基礎教育TVセミナー」を実施した。

第 2 分科会 原子力教育を受けたことのない国内外の学生を対象に、優れた国際感覚、高いコミュニケーション能力や情報発信能力を有するグローバル原子力人材育成を目指して 1ヶ所に集まり 1 週間のセミナーを行う「実践的原子力安全教育道場」を実施した。

第 3 分科会 原子力工学に関心を持つ有能な学生を 19 大学から選抜し、海外大学あるいは、国際原子力機関（IAEA）等へ派遣し、優れた国際感覚、高いコミュニケーション能力や情報発信能力を有するグローバル原子力人材育成を目指し「原子力国際展開に向けた人材育成」を実施した。

3. 本事業の成果 「グローバル原子力人材育成ネットワーク」の基盤整備を目指して、19 大学の強い結束の下、活発な分科会活動を行い、以下に示すような成果を得た。

(1) 国際原子力基礎教育TVセミナー フェーズ 3 では、これまでに国内向けに 3 回、国外向けに 8 回実施した。9 年間のこれまでの受講者数は国内向けで 2,489 名、国外向けで 304 名に達した。

(2) 実践的原子力安全教育道場（アジア大会） 国内参加 19 大学及び海外参加 2 大学から優秀な学生を 10 名選抜し、平成 29 年度には福島県-茨城県において実施し、平成 30 年度には福井県で実施予定である。

(3) 原子力教国際展開に向けた人材育成 平成 28 年度には、日本の学生 3 名をタイ及びマレーシアに 1 週間、平成 29 年度には 2 名の学生を国際原子力機関（IAEA）に 2.5 ヶ月間のインターンシップ研修生として派遣した。

*Kenji Takeshita
Tokyo Tech.